

# 平成25年度学校関係者評価委員会

大阪市立デザイン教育研究所

## 開催日時

平成26年2月10日（研究所展覧会期間）

## 参加委員

大阪商工会議所 北支部事務局次長  
大阪市立第二工芸高等学校長  
大阪市立デザイン教育研究所 後援会長

## 学校側

大阪市立デザイン教育研究所 所長  
大阪市立デザイン教育研究所 准教授

## 学校関係者評価委員会 次第

### 1 高校生（工芸・第二工芸）と研究所学生との連携プロジェクト視察

14:30～15:00

災害時に役立つグッズの提案を班に分かれてプレゼンテーションする様子を視察。各委員から企画・デザイン・プレゼンテーションに対しコメントをいただく。

15:00～15:30（所長室へ移動）

### 2 司会者から今年度の報告

計画を別紙カリキュラムより説明

全体のカリキュラム構成は本校の特色であるプロジェクト（プロジェクトベース・チームベースで社会の要求に対応し、デザインで問題解決する）を中心に組み立てる。ベースになる力の養成に注意を払い、その上にチームで取り組める力をつける。

参考資料：小中高教育課程の変遷

今年度の重点を説明

視察していただいたプロジェクトに代表されるように、ブレインストーミング段階は上手くこなす。読書・スケッチの習慣を身に付け、デザイン負荷に耐えられる力を付ける。（スケッチ中心の動物園プロジェクトを前期にし、企画性の高い影絵を後期に）

状況と結果の説明

1年プロジェクトのグループ化に遅れ。2年のポートフォリオが進まない。全体的に報告・連絡・相談のコミュニケーション不足になりがち。

### 3 委員からのご意見

高校との連携プロジェクトの視察

「着眼点が良い。」「企画が将来的にも広がりを持っている。」「9:00から14:30の1日だけの成果とは思えない内容になっている。」

#### 企業との連携プロジェクト

「連携プロジェクトはよくできている。」「挨拶などの企業人としての振る舞いには問題がありそう。」「プロジェクトベースの教育は大切。淀井先生（工芸一期生・元東京芸大美術学部長）も基礎教育は学生の感性に任せず、しっかりした基礎を教授すべきとおっしゃった。その後に専門特化する必要がある。研究所は上手に教育できている。しかし、現行の2年間では短いのではないか。」「難しいでしょうが、このまま質を落とさずに修正を加えながら続けてほしい。」

#### 高校との接続性

「高校無償化の現在、この学校の求める個人負担は大きすぎる。学費は無償が望ましい。」「研究所設立の精神に立ち戻ってほしい。人を育てないと世の中（大阪）は良くならない。子供の教育は大切。コストではない。」「教育を企業のコスト意識で見るのは良くない。」